

市民エージェントの構想する新しい都市のかたち  
——グローバル化と新自由主義を越えて——

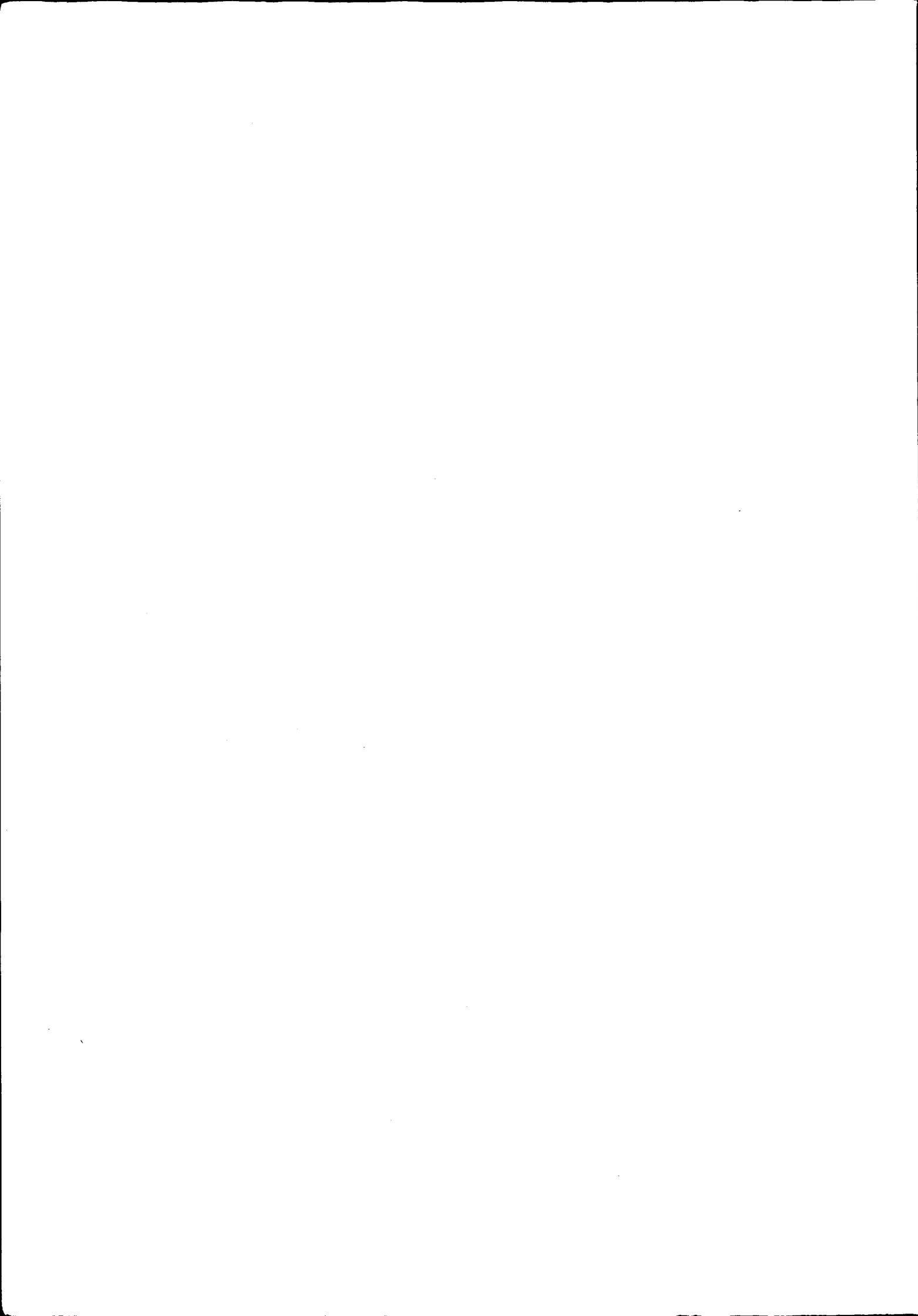
(課題番号：17330113)

平成17年度～平成20年度  
日本学術振興会  
科学研究費補助金 基盤研究 (B)  
研究成果報告書

2009 (平成21) 年3月

研究代表者：町 村 敬 志

(一橋大学大学院社会学研究科教授)



## はじめに

本報告書は、日本学術振興会科学研究費・基盤研究 (B) 「市民エージェントの構想する新しい都市のかたち——グローバル化と新自由主義を越えて——」(平成17年度～20年度)(研究代表者・町村敬志)に基づく研究プロジェクトの最終年度成果報告書である。

介入主義から新自由主義へと向かう大きな転換を経験してきた日本社会は、今日、さらに新しい矛盾や壁へと直面しつつある。この段階において、市民社会を基盤とした諸社会集団はどのように編成・再編されつつあるのか。とりわけ、グローバル化の影響下に置かれた大都市には、どのような集合的なアクティビズムの可能性が内蔵されているのか。

本研究は、こうした問いに答えるため、首都圏で活動している社会運動・市民活動団体、約3600を対象に、2006年9～10月に質問紙調査を実施した。「社会運動」からいわゆる「市民活動」にまで広がる集合的なアクティビズムの今日的な形をいかにとらえていくか。本調査は、「課題を抱えた社会を市民の側から変えていく担い手たちの集合体」を、(広義の)市民活動団体と理解した上で、多様な集団に着目をした。選定方法は本文に譲るが、対象には、社会運動からNGO、NPO、ボランティア団体、サークル、そして近年のいわゆる「市民活動団体」までが含まれている。市民社会に基盤をおく団体という意味で、以下ではこれらを「市民社会組織」Civil Society Organization と総称する。また、対象の幅を簡潔に示すため「社会運動/市民活動」と表記する場合がある。

前例のあまりない調査だけに、その実施に当たってはさまざまな試行錯誤が繰り返された。この過程で実に多くの皆様のご協力をいただいた。まず何よりも、今回の面倒な調査に対してご回答やご助言・ご批判の形でご協力を賜った多くの団体関係者の皆様に、心から御礼を申し上げます。対象の全団体には簡易報告書(本報告書付録参照)をお送りしたほか、基本集計による中間報告書(2007年)も「一橋大学機関リポジトリ」(<http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/>)により全文入手可能となっている。基本資料の作成に当たっては、埼玉大学共生社会研究センターから多大の便宜をお図りいただきました。このほか多くの方のご協力をいただきました。厚く御礼を申し上げます。

どうか忌憚のないご批判、多くのご助言等をいただけますと幸いに存じます。

2009年3月

日本学術振興会科学研究費 基盤研究 (B)  
「市民エージェントの構想する新しい都市のかたち  
——グローバル化と新自由主義を越えて——」  
研究代表者 町村敬志(一橋大学大学院社会学研究科)  
プロジェクト・メンバー一同

### ●お問い合わせ先

186-8601 東京都国立市中2-1 一橋大学大学院社会学研究科 町村研究室  
電話・FAX 042-580-8642 電子メール cs00035@srv.cc.hit-u.ac.jp  
URL <http://homepage3.nifty.com/machimura/>

## 目 次

はじめに	町村敬志	1
目次		2
執筆者一覧・関連する業績一覧		3
<b>第1部 「市民活動団体」調査の理論と方法</b>		
第1章 『首都圏の市民活動団体に関する調査』の課題	村瀬博志	9
第2章 調査の方法	町村敬志	17
第3章 社会運動・市民活動の現在——主要な問いから考える		
(1) 市民社会組織の担い手の再生産	村瀬博志	25
(2) 市民活動団体の地理的分布——市民活動団体リストから	上野淳子	30
(3) 活動の場としての首都圏	松林秀樹	33
(4) 市民活動団体の類型化の試み	丸山真央	41
<b>第2部 構造と歴史</b>		
第4章 市民活動団体の形成基盤		
——重層する「出来事」の創発性——	町村敬志	53
第5章 市民運動からNPOへ		
——埼玉ベ平連・浦和市民連合の軌跡——	山本唯人・相川陽一	83
<b>第3部 運動と空間</b>		
第6章 何が市民活動を促進するか——問題、資源、政治的機会——	上野淳子	99
第7章 「アクティヴィズムの空間」を地図化する		
——都市空間の新自由主義的再編が市民アクティヴィズムに与える影響の検証——	山本唯人・植田剛史・村瀬博志・寺田篤生	111
第8章 アクティヴィズムの空間スケール編成	岩館豊・相川陽一	127
<b>第4部 「市民社会組織」研究のフロンティアへ</b>		
第9章 現代「市民社会組織」の地理-歴史的編成		
——団体結成年・郊外化・影響の継続——	山本唯人	139
第10章 NPO 法人格取得の決定要因とは何か	村瀬博志	163
第11章 市民社会組織の自己性格規定の要因		
——組織構造とリーダー層に着目して——	丸山真央	173
第12章 資源としての専門知識・技術		
——市民社会組織の専門化とそのポテンシャルに関する考察——	植田剛史	189
第13章 ネオリベリズムの時代の市民社会組織と政党		
——市民社会組織リーダー層の政党支持の分析を通じて——	丸山真央	207
第14章 都市開発をめぐる市民活動とリーダー層の意識		
——抗議行動と参加・参画——	上野淳子	221
第15章 市民社会組織の活動アリーナ——その構造と動態——	町村敬志	233
第16章 社会運動とグローバリゼーション	村瀬博志	245
第17章 「NPO 革命」と反革命		
——敵対性を胚胎する場所をめぐって——	仁平典宏	259
付録1 調査票（単純集計付き）・対象者向け報告書		
付録2 国際会議発表資料		

#### 執筆者一覧（50音順）

相川陽一（一橋大学大学院社会学研究科 博士後期課程）  
岩館豊（一橋大学大学院社会学研究科 博士後期課程）  
植田剛史（一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程 日本学術振興会特別研究員）  
上野淳子（日本学術振興会特別研究員 一橋大学）  
寺田篤生（一橋大学大学院社会学研究科 博士後期課程）  
仁平典宏（日本学術振興会特別研究員 一橋大学）  
町村敬志（一橋大学大学院社会学研究科）  
松林秀樹（関東学園大学）  
丸山真央（日本学術振興会特別研究員 首都大学東京）  
村瀬博志（一橋大学大学院社会学研究科 博士後期課程 日本学術振興会特別研究員）  
山本唯人（(財)政治経済研究所研究員）

（2009年3月末時点）

### 関連する業績一覧

#### 著書・論文

町村敬志編，2007，『首都圏の市民活動団体に関する調査——調査結果報告書——』（科学研究費基盤研究(B)（2005～2008年度）2006年度報告書），一橋大学大学院社会学研究科町村敬志研究室，118頁。

町村敬志編，2007，『首都圏の市民活動団体に関する調査——基礎集計と分析——』一橋大学大学院社会学研究科町村敬志研究室，（『あごら』316号，2008年1・2月号，4-21頁に再録）。

丸山真央・仁平典宏・村瀬博志，2008，「ネオリベリズムと市民活動／社会運動——東京圏の市民社会組織とネオリベラル・ガバナンスをめぐる実証分析」『大原社会問題研究所雑誌』602号，51-68頁。

村瀬博志，2008，『「市民社会」の再編成を捉えるために——<社会運動の同定問題>の再考を通して』『ソシオロゴス』32号，114-29頁。

仁平典宏，2008，『「ボランティア」の意味論の変容過程と機能に関する社会学的研究——福祉国家の形成／再編及びネオリベリズムとの関係に着目して』（博士論文，東京大学大学院教育学研究科）。

#### 口頭報告

相川陽一，2007，「首都圏における市民活動団体の現在（2）——活動分野とレパートリーにみる団体の布置状況——」，日本社会学会第80回大会，関東学院大学，2007年11月。

町村敬志，2007，「新自由主義都市における権力構造と集団編成——「縮小する社会」に

おける新しい構造化の分析のために——」地域社会学会第 32 回大会（シンポジウム・縮小社会と地域社会の現在），金城学院大学，2007 年 5 月。

Takashi, MACHIMURA, 2007, "Evaluation and Certification as an Institutional Basis of Civic Mobilization: Urban Governance and Power Structure in Neo-liberal Tokyo", International Sociological Association, Research Committee 21, International Conference, 2007. 8, University of British Columbia, Vancouver, Canada.

町村敬志, 2007, 「首都圏における市民活動団体の現在（1）——都市社会運動の現代的課題と調査方法——」, 日本社会学会第 80 回大会, 関東学院大学, 2007 年 11 月。

Takashi MACHIMURA and Masao MARUYAMA, 2006, "From a Declining Global City to a Competitive Mega-City?: Tokyo in the 'Lost Decade' and its Aftermath," The International Conference on "Restructuring and Competitiveness of Major City-Regions in Northeast Asia"（韓国国土研究院主催国際会議『北東アジアの大都市地域の競争力のリストラクチュアリング』）, Korea Research Institute for Human Settlements, Seoul, Korea, August 2006.

丸山真央・仁平典宏, 2007, 「首都圏における市民活動団体の現在（3）——「ネオリベラリズムとの共振」をめぐって——」, 日本社会学会第 80 回大会, 2007 年 11 月, 関東学院大学。

丸山真央・仁平典宏・上野淳子, 2008, 「ネオリベラリズムと日本都市——ポスト世界都市論段階の東京研究に向けての整理——」, 日本都市社会学会第 26 回大会, 法政大学（町田市）, 2008 年 9 月 13 日。

Masao MARUYAMA, Norihiro NIHEI, and Hiroshi MURASE, 2007, "Complicit with Neo-liberalism, or not? Civil Activism in Globalized/Neo-liberalized Tokyo," International Sociological Association Research Committee 21 (Sociology on Urban and Regional Development) International Conference on "Urban Justice and Sustainability," University of British Columbia, Vancouver, Canada, August 2007.

Masao MARUYAMA, Norihiro NIHEI, and Junko UENO, 2008, "Reconsidering the Urban Political Restructuring in Globalized Tokyo: Developmentalism and Neoliberalization," International Sociological Association Research Committee 21 (Sociology on Urban and Regional Development) International Conference on "Landscapes of Global Urbanism: Power, Marginality, and Creativity," International House of Japan, Tokyo, Japan, December 2008.

村瀬博志, 2007, 「『首都圏の市民活動団体に関する調査』の結果と今後の課題」ワークショップ「社会運動・市民活動の現在を考える」, 一橋大学佐野書院, 2007 年 7 月 24 日。

村瀬博志, 2007, 「市民社会の再編成を捉えるために——『首都圏の市民活動団体に関する調査』から」, 社会運動論研究会, 大阪経済法科大学東京麻布台セミナーハウス, 2007年10月21日.

村瀬博志, 2007, 「市民社会の再編成を捉えるために——『首都圏の市民活動団体に関する調査』から」, 日本社会学会大会, 関東学院大学, 2007年11月18日.

MURASE, Hiroshi, 2008, "Dynamics of Civil Society Organizations in Tokyo: The Linkage of Social Movement Industry", First ISA Forum of Sociology, Barcelona Spain, September 7, 2008.

MURASE, Hiroshi, TERADA, Atsuo, UEDA, Takefumi, and YAMAMOTO, Tadahito, 2008, "Mapping Urban Civic Activism: To visualize Neoliberal Urban Spatial Politics in Tokyo Metropolitan Region," International Sociological Association Research Committee 21 International Conference, Tokyo Japan, December 18th 2008.

仁平典宏, 2007, 「<運動的なるもの/NPO的なるもの>の二値コードを追尾する——運動的/非運動的をめぐる意味論の変動と『第三項』の場所をめぐる」, 第80回日本社会学会大会(テーマセッション「社会運動とNPO/NGO」), 関東学院大学, 2007年11月18日.

NIHEI, Norihiro, 2009, "The Restructuring of 'Civil Society' in Japan, 1990s-2000s". Nissan Institute Seminar in Japanese Studies at University of Oxford, 26th Feb 2009.

寺田篤生, 2007, 「首都圏における市民活動の現在(5)——パブリックスペースと市民活動——」, 日本社会学会第80回大会, 関東学院大学, 2007年11月.

上野淳子, 2007, 「首都圏における市民活動団体の現在(4)——団体立地にみる市民活動の促進/抑制要因——」, 日本社会学会第80回大会, 関東学院大学, 2007年11月.

UENO, Junko, 2008, "Disguised impacts of state-led urban restructuring: What prevented the people from realizing its negative impacts?" First ISA Forum of Sociology, Barcelona Spain, September 7th 2008.

山本唯人, 2007, 「首都圏における市民活動団体の現在(6)——団体リーダーの運動史認識: 過去の運動の影響・評価——」, 日本社会学会第80回大会, 関東学院大学, 2007年11月.